

藤沢市車両出入口設置基準

藤沢市
道路河川部 道路管理課
2014.4.1 改訂

【 車両出入口設置基準 】

道路法第24条に基づき施行される工事のうち、車両が道路に隣接する民地等に入出入りするため、縁石等の一部に対して切り下げ又は切り開き等の処置を行う箇所(以下、「車両出入口」とする。)の構造については、本基準の構造を標準とする。また、本基準に当てはまらない構造等については、道路構造及び交通の安全に配慮し、道路管理者と協議を行うこと。

1 車両出入口の設置箇所

車両出入口は、原則として次に掲げる(1)から(9)までの場所以外に設けるものとする。ただし、民家等にその家屋所有者の自家用車が入出入りする場合であって、自動車の出入りの回数が少なく、交通安全上特に支障がないと認められる場合には、(2)から(4)及び(6)は適用しないことができるものとする。

- (1) 横断歩道及び前後5m以内の部分。
- (2) トンネル、洞門等の前後各50m以内の部分。
- (3) バス停留所、路面電車の停留場、ただし停留所を表示する標柱又は標示板のみの場合は、その位置から各10m以内の部分。
- (4) 地下道、地下鉄の出入口及び横断歩道橋の昇降口から5m以内の部分。
- (5) 交差点(総幅員7m以上の道路の交差する交差点をいう。)及び交差点の側端又は道路の曲がり角から5m以内の部分、ただしT字型交差点のつきあたりの部分を除く。
- (6) バス停車帯の部分。
- (7) 橋の部分。
- (8) 防護柵及び駒止めの設置されている部分、ただし交通安全上特に支障がないと認められる区間を除く。
- (9) 交通信号機、道路照明灯の移転を必要とする箇所、ただし道路管理者及び占有者が移転を認めた場合は除く。

2 出入口の箇所数

一施設あたり1箇所とする。ただし、道路管理上及び交通安全上の事由がある場合のみ、この限りではない。

3 切り下げ幅

歩道切り下げ幅とは、切り下げ用ブロックの部分のことで、すり付け用の斜ブロックは含まない。切り下げ幅については、次のとおり。

| 個人住宅 | 個人住宅以外 | その他 |
|---------|---------|--|
| 4. 2m以内 | 8. 4m以内 | ①軌跡等により算出された必要最小限の切り下げ幅 ②土地の利用状況により、左記の幅にすることが困難な場合は、別途協議を行う。 |

4 舗装構成

舗装構成(標準:アスファルト舗装)については、次のとおり。

| 区分 | 個人住宅 | 個人住宅以外 | ※透水性舗装(個人住宅のみ) |
|----------------|--------------|-------------------------|------------------------|
| 表層(材料) (厚さ) | 再生密粒度 5cm | 再生密粒度 5cm | 表層:開粒度 5cm |
| 基層(材料) (厚さ) | / | 再生粗粒度 5cm | 路盤:再生砕石(RC-40) 20cm |
| 路盤(材料) (厚さ) | | 再生粒度調整砕石(RM-30) 30cm | フィルター層:砂層 10cm |

※新材使用可

※透水性舗装の路線は、表の右端の舗装構成とし、平坦部の横断勾配は1%とする。

※その他特殊な舗装(半たわみ性舗装・インターロッキングブロック・タイル張り・石張り等)の舗装構成については、その都度道路管理者に確認する。

5 歩道切り下げの施工方法

(1) マウントアップタイプ(歩道面が車道面よりも高い場合)

歩道面には、車いす使用者等の安全な通行を考慮して、原則として幅1m以上の平坦部分を連続して設けるものとする。

平坦部分の横断勾配は2%以下、透水性舗装の場合は1%以下とする。また、歩車道境界の段差は5cmを標準とする。

① 歩道幅員が広い場合

歩道の幅員が十分確保される場合には、車いす使用者の円滑なすれ違いを考慮して、平坦部分を幅2m以上確保するよう努めるものとする。

すり付け部分の横断勾配は15%以下とする。

② 歩道幅員が狭い場合

歩道幅員が狭く平坦部分が確保できない場合は、民地側の地先境界ブロックも切り下げて歩道全幅を平坦(フルフラット)とする。

すり付け部の縦断勾配は、5%以下とする。ただし、やむを得ない場合は8%以下とすることができる。

③ 植樹帯等がある場合

歩道の連続的な平坦性を確保し、植樹帯等の幅員内ですり付けを行う。

(2) セミフラットタイプ

歩車道境界ブロックは切り下げ用ブロックを使用する。

平坦部分の横断勾配は2%以下、透水性舗装の場合は1%以下とする。また、歩車道境界の段差は5cmを標準とする。

(3) その他のタイプ

その他バリアフリー化された道路や自転車歩行者道等特殊に改良された路線については、同路線上の他の切り下げ部の構造に合わせる。その他、不明な場合は協議により構造を決定する。

6 その他附帯する工事について

(1) 既存の車両出入口の復旧

既存の車両出入口を廃し、新たに出入口を設置する場合は、既存の出入口は通常の形態に復旧させること。

(2) 構造物等の移設

車両出入口を設置する箇所にある構造物については、それぞれの管理者と移設等の協議をすること。

また、道路附属物(道路照明灯、植樹帯及び植樹柵等)がある場合は、原則、移設すること。街路樹の移植先がない、または移植が不可能な場合は、撤去・伐採し、代替えとして他の場所に街路樹を補植をすること。

(3) 車止め等の設置

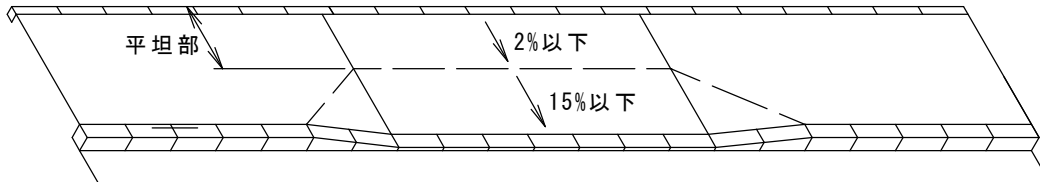
車両出入口から歩道部への車両の進入を防止し、歩行者の安全確保するために、必要に応じて車止めを設置すること。、公道に接する部分を全面切り下げにする場合は、歩行者の安全確保のために、中間も含め数箇所設置すること。

7 歩道切り下げ参考図

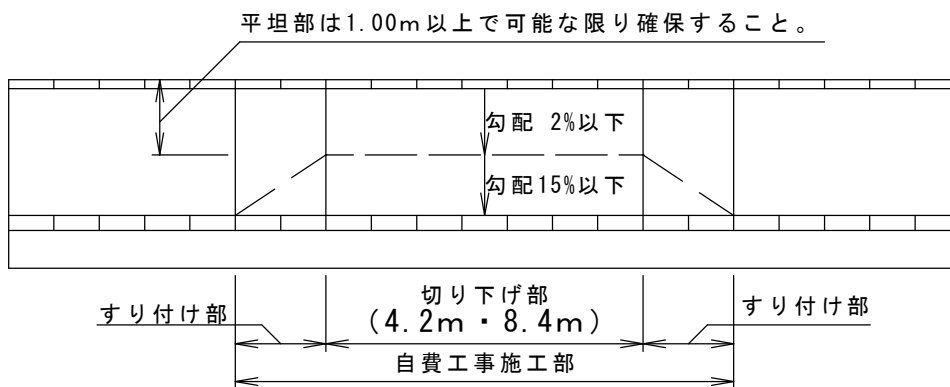
(1) マウントアップタイプ

① 歩道幅員が広い場合

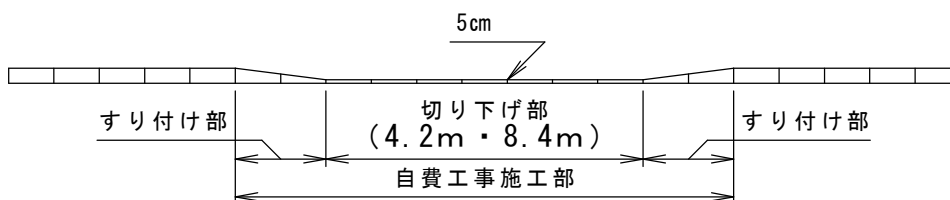
切り下げイメージ図



平面図

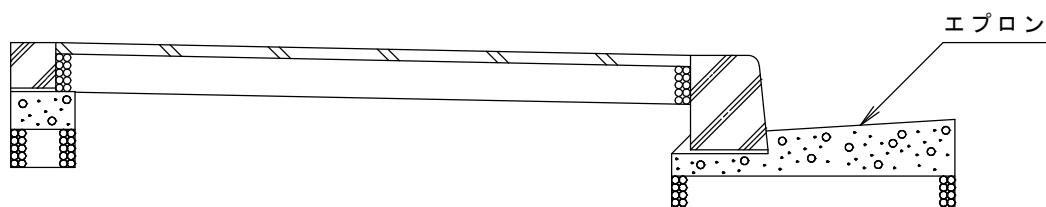


側面図

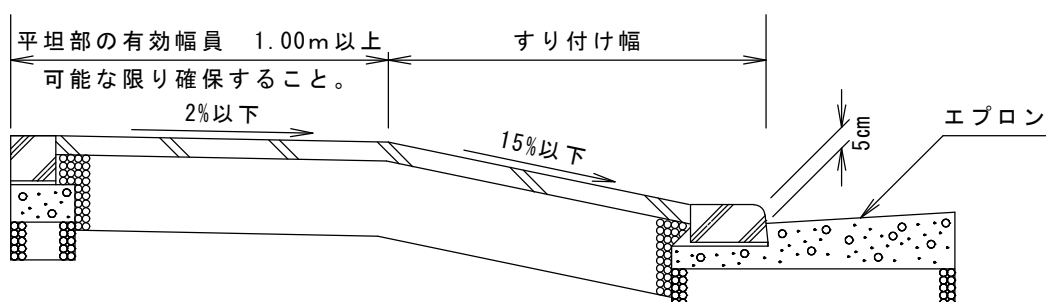


横断面図

現況



切り下げ後



詳細条件

(ア) 切り下げ部分の歩車道境界ブロックは、平ブロック（5cm段差）か又は、特殊切り下げ（10cm段差）を標準とする。

※特殊切り下げを使用する場合のすりつけ勾配は10%とする。

(イ) エプロンと歩車道境界ブロックの段差は、5cmを標準とする。

(ウ) 平坦部の横断勾配は、2%以下とすること。

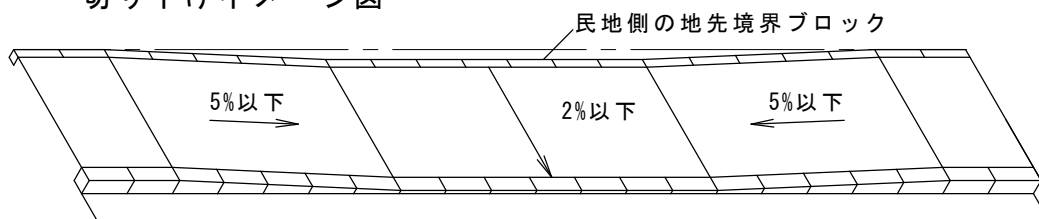
（透水性舗装の場合は1%以下）

(エ) 平坦部の有効幅員は、1m以上可能な限り確保すること。

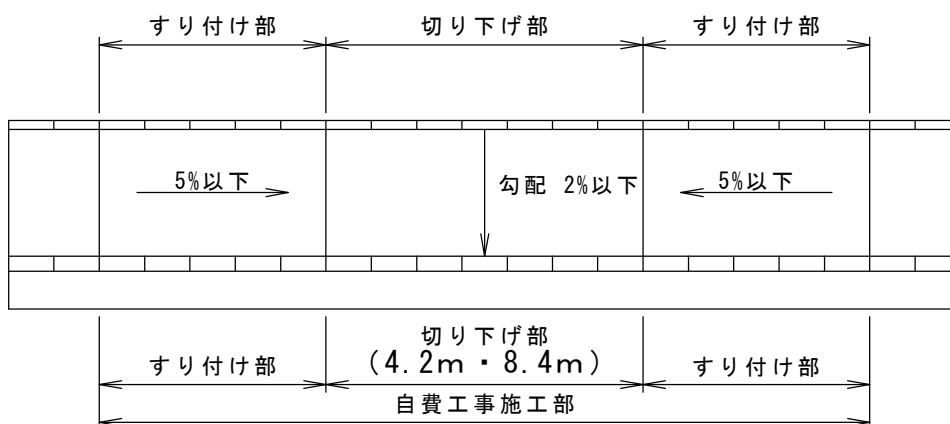
②歩道幅員が狭い場合（平坦部が1 m以上確保できない場合）

民地側の地先境界ブロックも切り下げて歩道全幅を平坦にする。

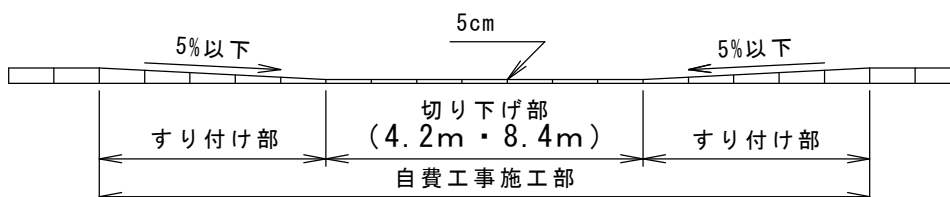
切り下げイメージ図



平面図

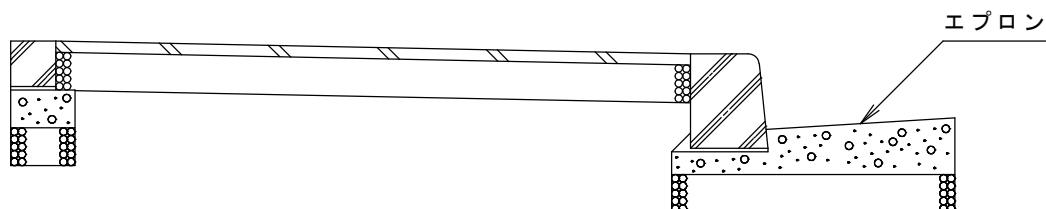


側面図

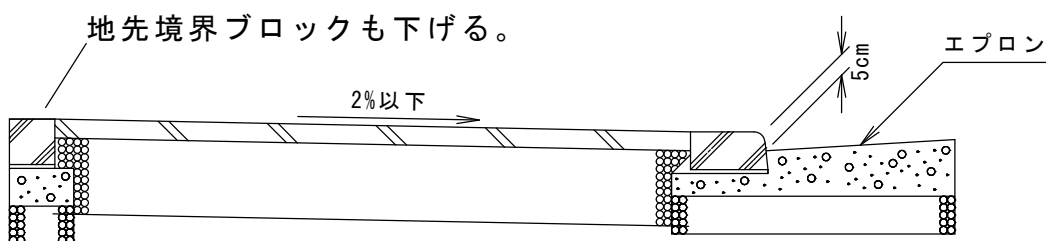


横断面図

現況



切り下げ後



詳細条件

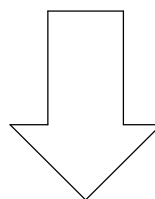
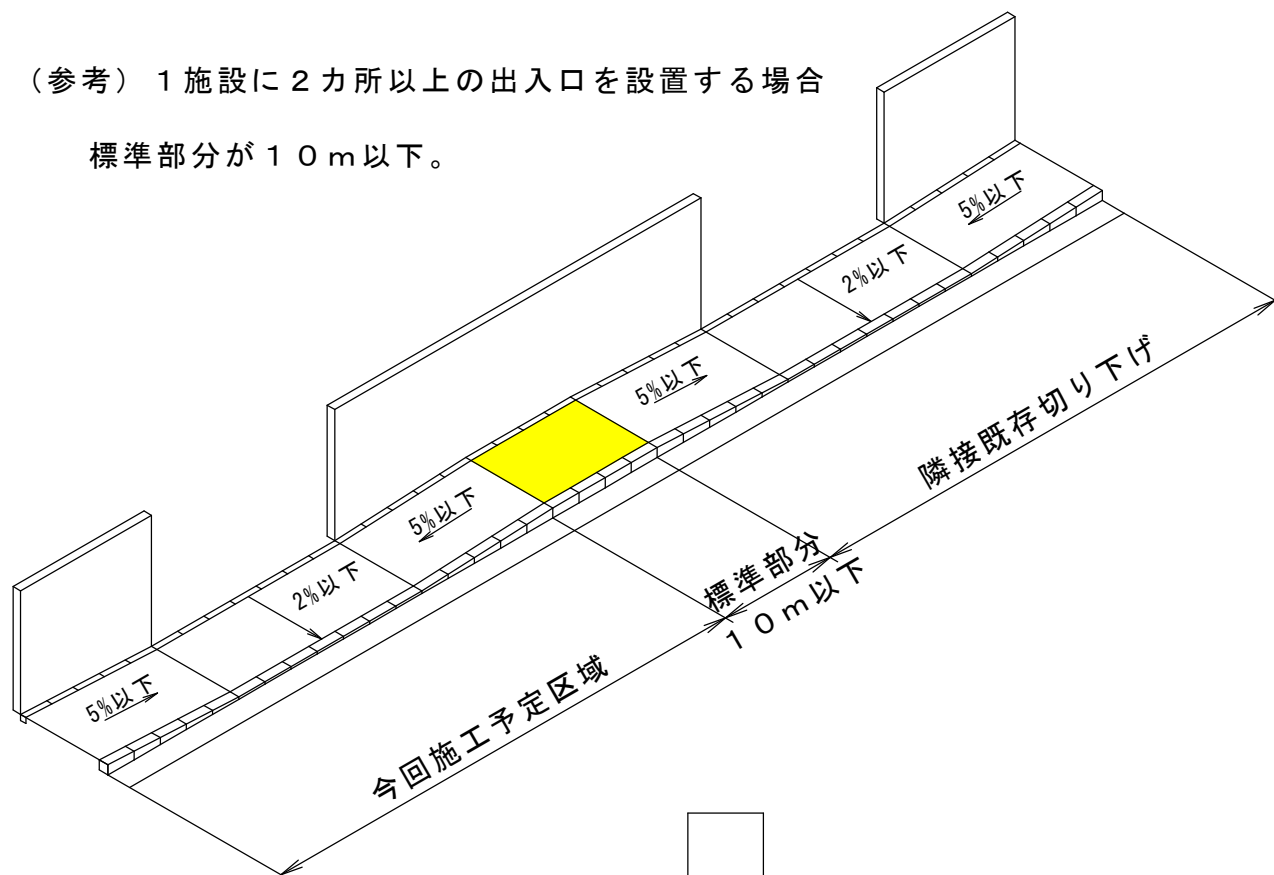
- (ア) 切り下げ部分の歩車道境界ブロックは、平ブロックを使用すること。
- (イ) エプロンと歩車道境界ブロックの段差は、5 cmを標準とする。
- (ウ) 平坦部の横断勾配は、2%以下とすること。
(透水性舗装の場合は1%以下)
- (エ) 歩行者の動線のすり付け勾配は、5%以下とする。

ただし、やむを得ない場合は、8%以下とすることが出来る。

- (オ) 1施設に2カ所以上の出入口を設置するときに、標準部分が10 m以下となる場合は、隣接する出入口を一体的に切り下げて整備すること。この際、出入口以外の部分については、両Rブロックや車止めにより、車両の進入を防止すること。

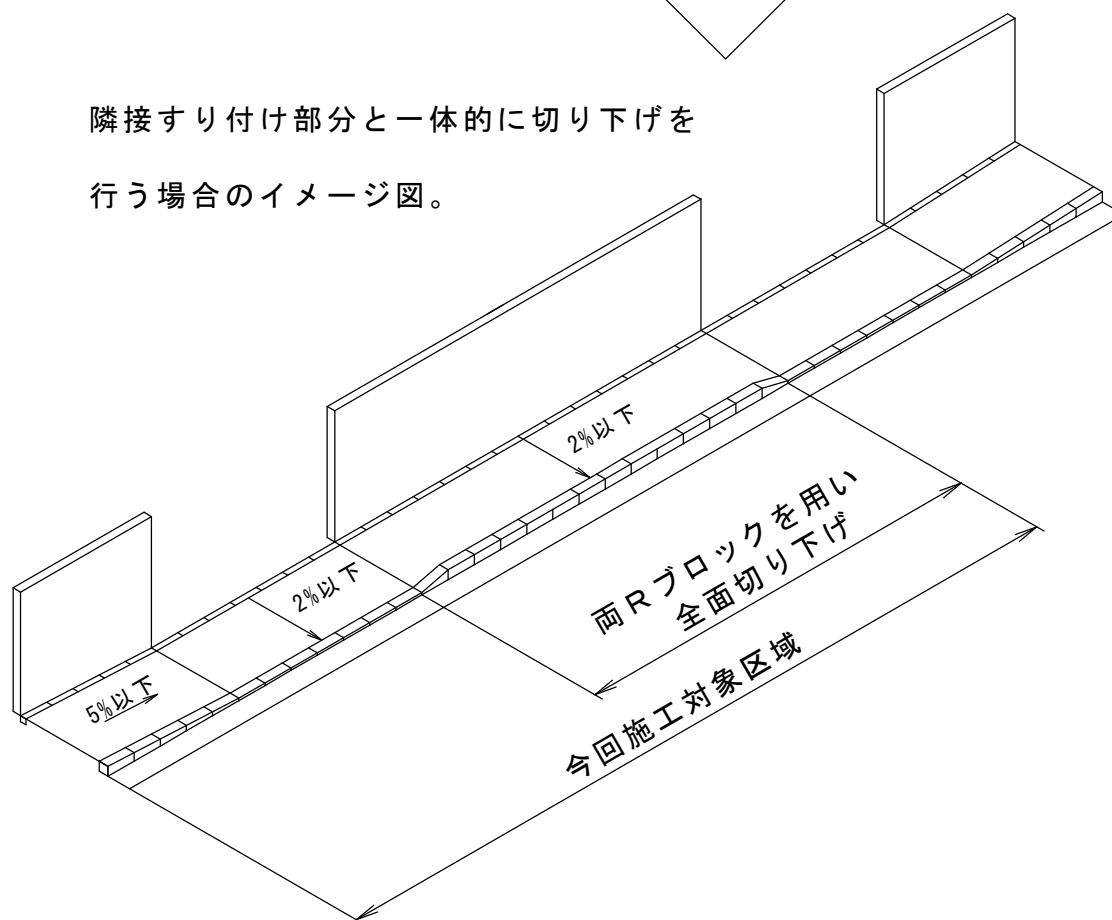
(参考) 1施設に2カ所以上の出入口を設置する場合

標準部分が10m以下。



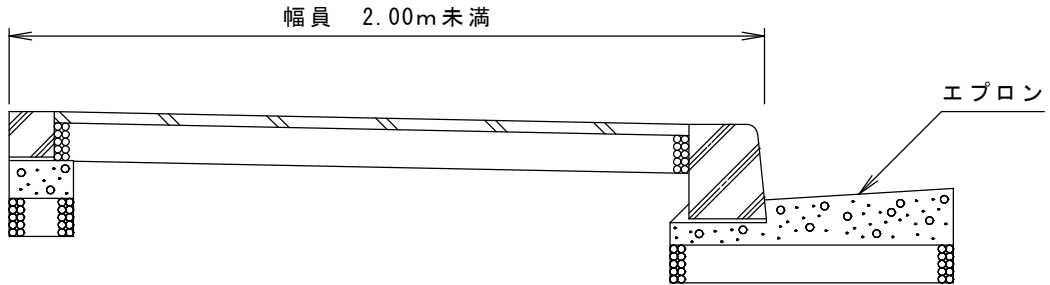
隣接すり付け部分と一体的に切り下げを

行う場合のイメージ図。

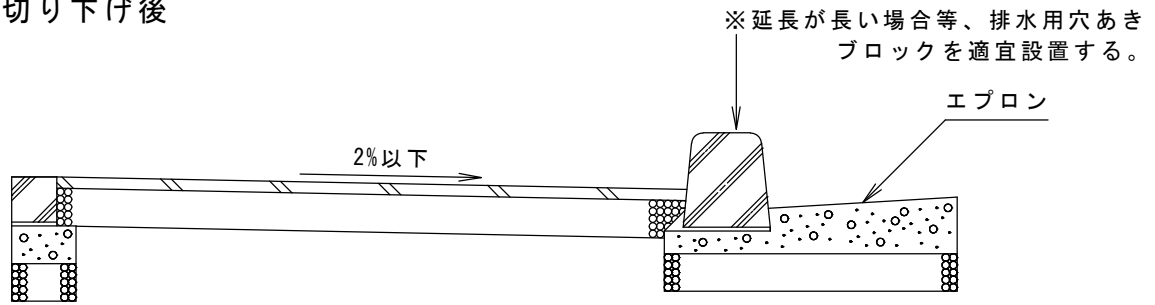


横断面図（両Rブロックを用い全面切り下げ部）

現況

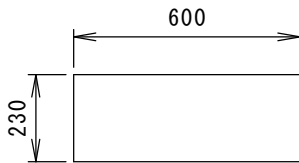


切り下げ後

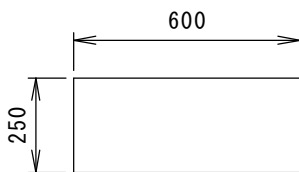


歩車道境界ブロック（両面歩車道・両Rブロック） 参考図

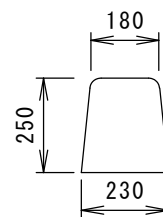
平面図



側面図

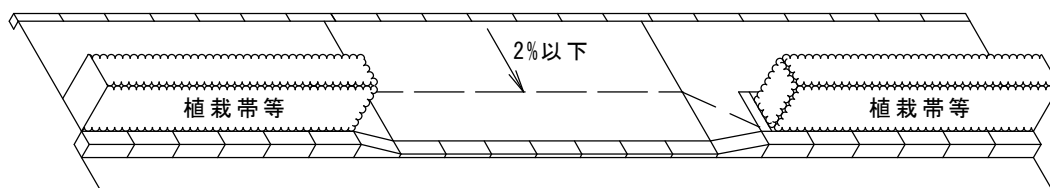


断面図

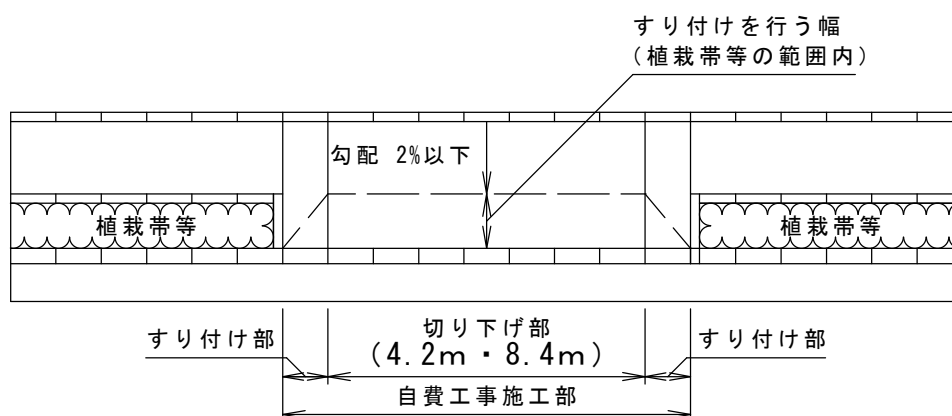


③歩道が車道よりも高い場合で歩道に植栽帯等がある場合。

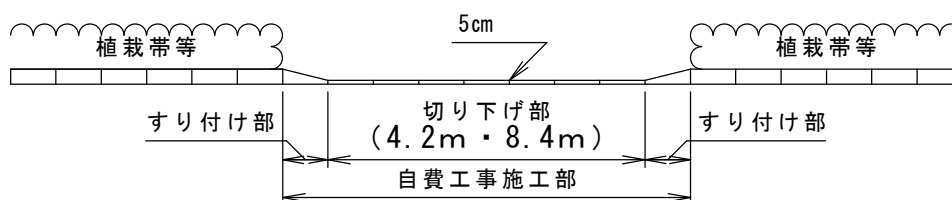
切り下げイメージ図



平面図

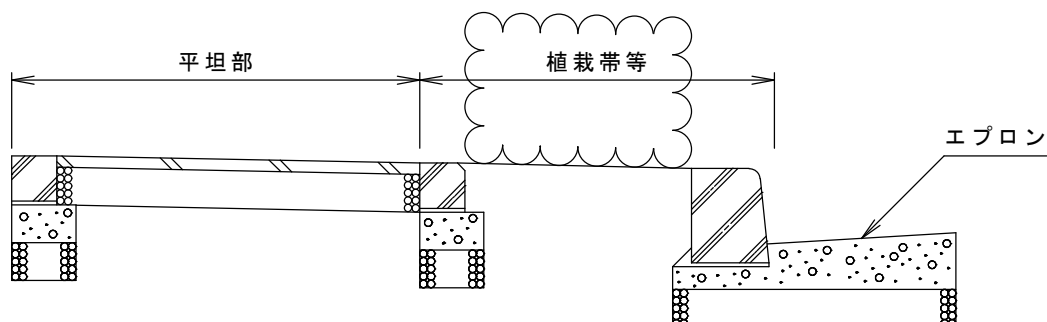


側面図

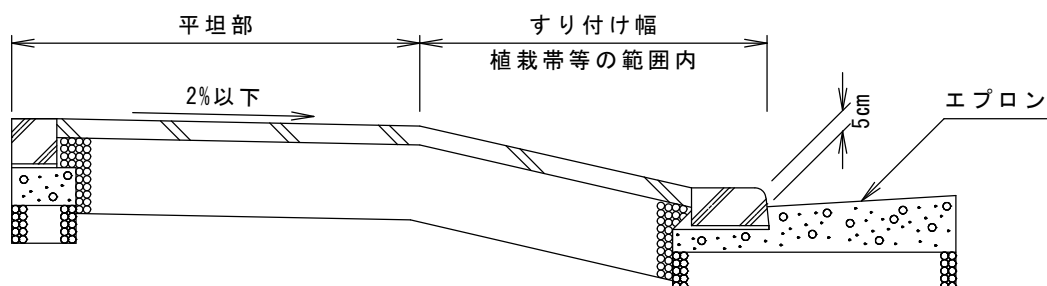


横断面図

現況



切り下げ後



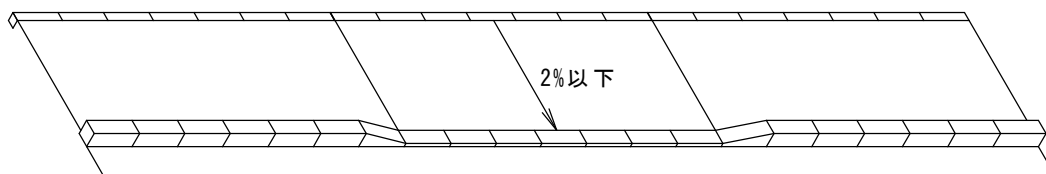
詳細条件

- (ア) 切り下げ部分の歩車道境界ブロックは、平ブロックを使用すること。
- (イ) エプロンと歩車道境界ブロックの段差は、5 cmとすること。
- (ウ) 平坦部の横断勾配は、2%以下とすること。
(透水性舗装の場合は1%以下)
- (エ) すり付けは、植栽帯等の範囲内で行うこと。(ただし、横断勾配を15%以下とする。)

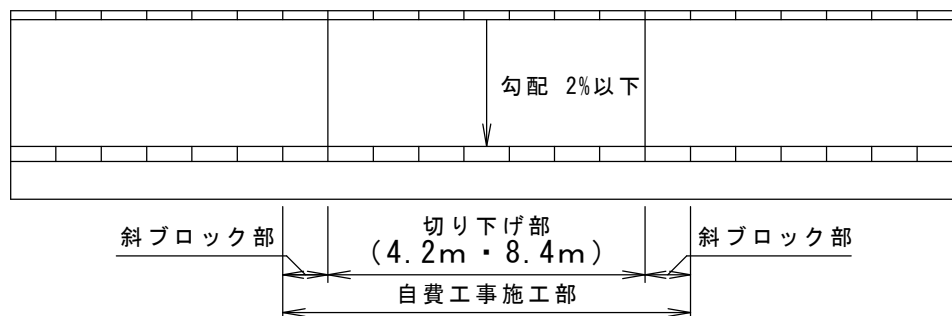
(2) セミフラットタイプ

歩道がセミフラット歩道（車道と段差が5 cm）の場合。

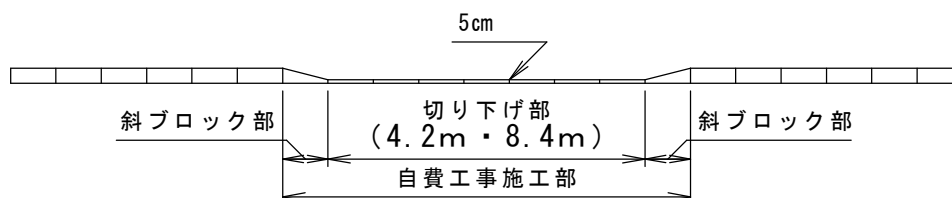
切り下げイメージ図



平面図

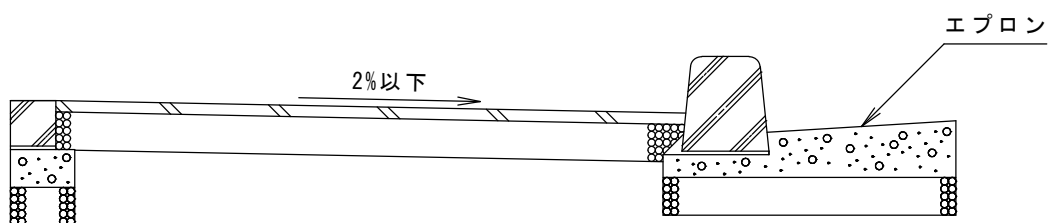


側面図

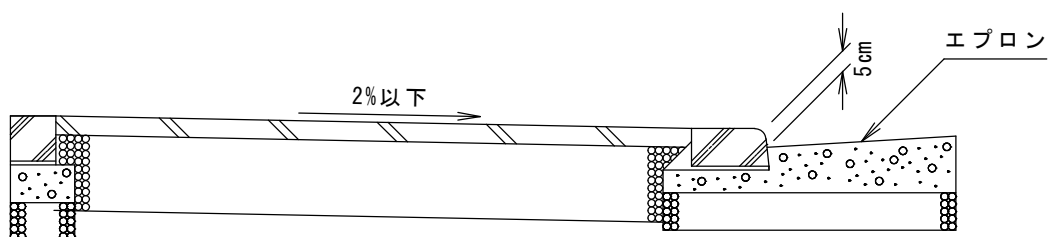


横断面図

現況



切り下げ後



詳細条件

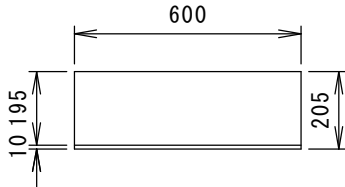
- (ア) 切り下げ部分の歩車道境界ブロックは、平ブロックを使用すること。
- (イ) エプロンと歩車道境界ブロックの段差は、5 cmとすること。
- (ウ) 平坦部の横断勾配は、2%以下とすること。
(透水性舗装の場合は1%以下)
- (エ) 切り下げ部の両端は、両Rブロック（斜ブロック）を使用すること。

8 その他（参考図）

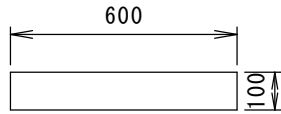
(1) 各種切り下げ用平ブロック

① 片面歩車道境界ブロックB切り下げ用平（歩車B10cm）

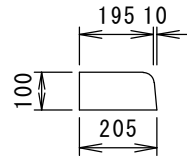
平面図



側面図

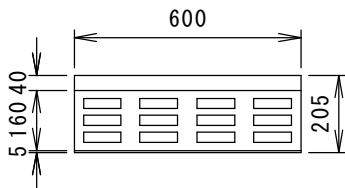


断面図

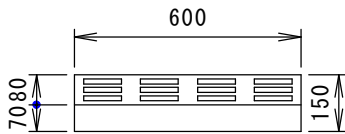


② マウンドアップブロック平（MD-B2）

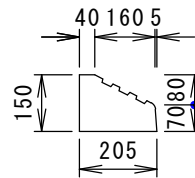
平面図



側面図

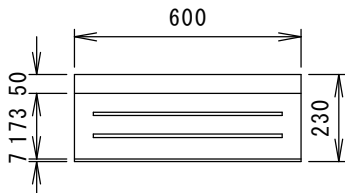


断面図

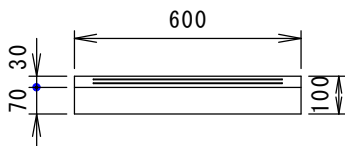


③ 両面歩車道境界ブロック切り下げ用平（Ⅲ型平）

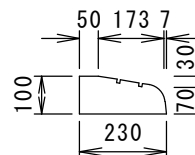
平面図



側面図

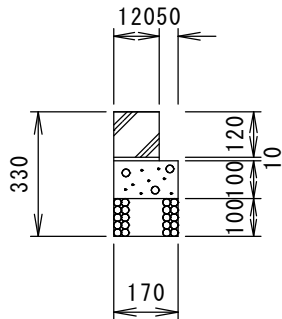


断面図

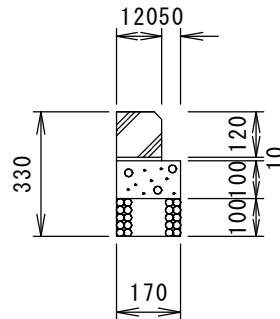


(2) 地先境界ブロック等

①地先境界ブロックエ

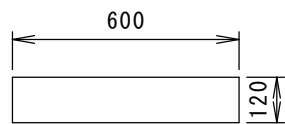


②植樹柵ブロックエ

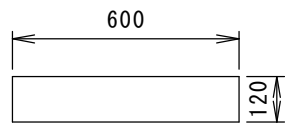


③地先境界ブロック

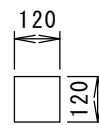
平面図



側面図

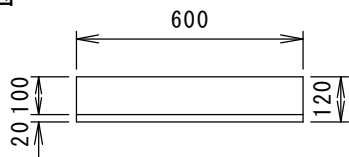


断面図

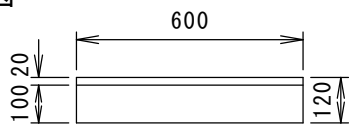


④植樹柵ブロック

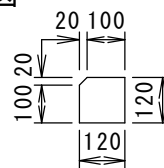
平面図



側面図

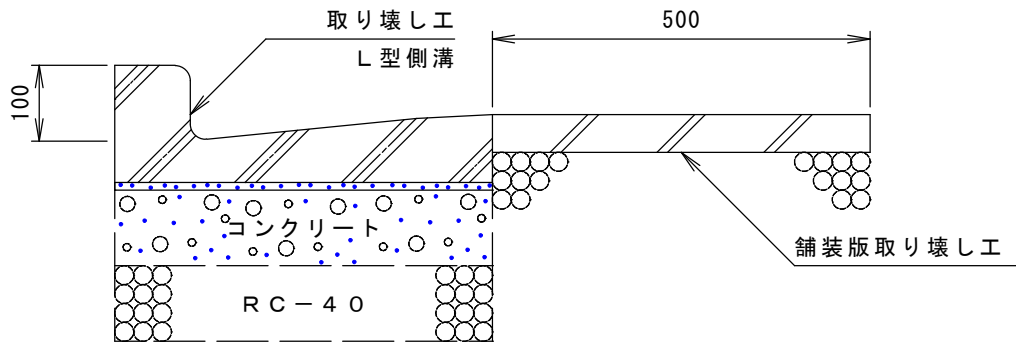


断面図

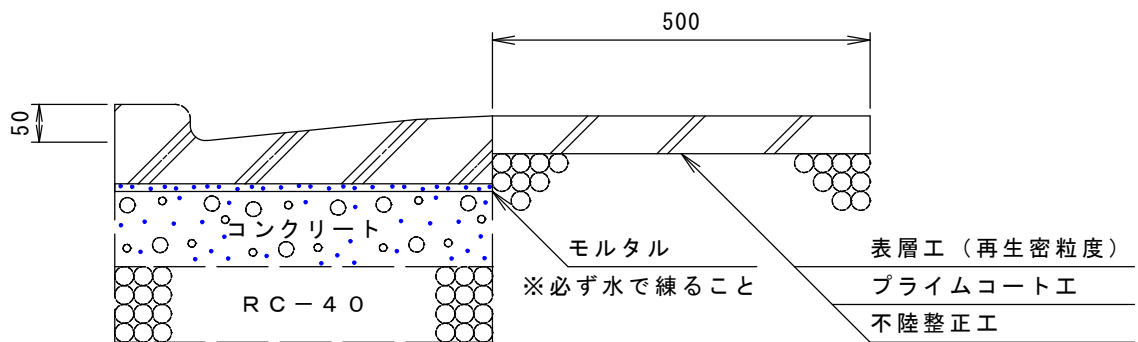


(3) L型側溝切り下げ

①既設L型側溝撤去工

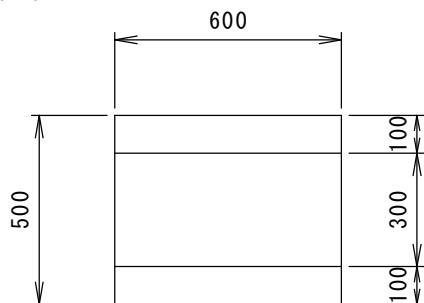


②L型側溝設置工

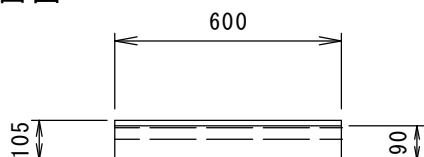


③L型側溝 (切り下げブロック)

平面図



側面図



断面図

